



万葉
詞

金札

神皇正統記天皇十一年
下りて山城國愛宕郡
平城郡とて山城國土安
石り同く貸見の里とて大
宮作り有敷しとの勅定は
唯今承久乃里下向仕候

うき^引不^レ望^レ神代より天地^レ
 あし^引回^レり^レる^レ天^レの^レ直^レ
 成^レや^レ名^レに^レ二^レ柱^レの^レ神^レこ^レ小^レ八^レ鳴^レ
 回^レ成^レは^レり^レも^レき^レま^レる^レ世^レあ^レれ^レ大^レ
 君^レの^レ影^レ長^レ閑^レき^レ時^レと^レや^レわ^レた^レ
 した^レあ^レる^レの^レも^レう^レの^レ神^レま^レく^レ
 来^レる^レ内^レ都^レ路^レ乃^レ直^レ成^レ世^レの^レ意^レ
 成^レや^レゆ^レ具^レの^レ里^レの^レ官^レ作^レり^レ大^レの^レ
 名^レの^レき^レる^レ雲^レ乃^レあ^レる^レ玉^レ殿^レの^レ
 月^レも^レ影^レり^レや^レる^レる^レる^レト^レノ^レ

引

の^レく^レま^レは^レり^レび^レも^レあ^レる^レ
 の^レ有^レ部^レ乃^レ作^レり^レや^レ同^レも^レ名^レた^レ
 の^レき^レ雲^レ乃^レ垣^レ霞^レ乃^レ行^レれ^レ玉^レも^レれ^レ
 の^レ時^レ代^レ小^レ降^レす^レも^レと^レ余^レも^レ也^レ

しき長生のちりまのちの思や
づきさふもしる宜祿川すの
さふいじうやそもいほよう
しき徳の人^{ニテ}是き伊勢のつふ
あふの浦小伝者成るあはれ
ちきさふもしる袖受し地も
うもふ王ははさひまうちう
うも王はさひとつうあふ
まやふも^{ニテ}まもるお力のあふ
いささういしやはれまて今も
あふふも^{ニテ}あふも^{ニテ}あふも^{ニテ}
ま下はも豊小伝い四代^{ニテ}
まこさう^{ニテ}竹の杖ぬき^{ニテ}を思ふ
宮所は^{ニテ}うてあふも^{ニテ}朝思ふ

金梅

春をたのむ

まけしき

ゆきみけ

せうけ

のくし

惟乃木

木乃木

ミウ

や

名

料

き

より

の

又

又

金れとよりよき奉りて何も
 杯我回き真如教の玉恒のゆふ
 毛つるやとむるなり流を絶せ
 次守るまふ伏見は信んと様を
 何頃お此はくふ何とて海し
 うりもてらそ^洋に海やう

こゝ宮庭は門はつ事成りし

わが^下海も^下卧見と物とて目事
 の君やいふふさいちなまのこ^下
 天の岩くれ苔菰小^上即く見ゆ
 うりし^上回されき^上伏とそ^上海^上海
 鴻の名ある^上想し^上人^上と^上事^上
 あり^上此^上回^上を^上始し^上そ^上里^上の^上名^上を^上
 見れ^上事^上も^上う^上の^上も^上わ^上ぬ^上を

唯^ニと^ニて^ニよ^ニし^ニ君^ニと^ニす^ニト

し^ニや^ニく^ニる^ニい^ニふ^ニこ^ニの^ニ新^ニれ^ニる

神^ニ神^ニち^ニも^ニあ^ニる^ニふ^ニ目^ニの^ニ行^ニふ^ニ事^ニ

羅^ニ海^ニと^ニ活^ニり^ニ新^ニ法^ニく^ニわ^ニる^ニふ

こ^ニよ^ニや^ニ君^ニ守^ニる^ニ八^ニ百^ニ万^ニの^ニき^ニし

あ^ニれ^ニや^ニか^ニく^ニ魔^ニ修^ニの^ニ直^ニに^ニ

は^ニき^ニら^ニる^ニま^ニる^ニ月^ニの^ニま^ニる^ニま^ニ

わ^ニか^ニく^ニ神^ニも^ニす^ニか^ニい^ニる^ニ修^ニる^ニ

こ^ニ神^ニ託^ニき^ニら^ニる^ニふ^ニた^ニる^ニも^ニ神^ニ

力^ニの^ニ魔^ニと^ニ対^ニ拂^ニひ^ニ法^ニを^ニさ^ニる^ニ

色^ニ金^ニ胎^ニ兩^ニ部^ニれ^ニる^ニ也^ニ年^ニの^ニ中^ニに^ニ活^ニる^ニ

回^ニる^ニれ^ニる^ニく^ニす^ニる^ニれ^ニや^ニ君^ニの^ニ子^ニ

長^ニき^ニ水^ニほ^ニの^ニ回^ニる^ニし^ニ豊^ニ小^ニ活^ニれ^ニや^ニあ

礼^ニや^ニ東^ニ夷^ニ西^ニ戒^ニ南^ニ蠻^ニ北^ニ狄^ニの^ニす^ニる^ニ

にあらんともては 銀とては
君もあらはれしとすりの所れを
あらぬ初り行を新しむらひに
もつてくぬゆふ町代ともあり
にあら

早稲田

佐保山

立禱衣もれとやぐ 夕とつとけ
かたなり 抑是を藤原の俊家ふ
我々もおも和加春日の明神を
神よりりけり 行はれま君よりけり
今も自らあらはれし 望まふ所なり
空の雲白く 霞よりく白雲の衣

依得之公

抄本

日

日

八

ツテ
女
入

一、イ、サ、ホ、
シ、ツ、ヌ、

已

文

レテサレヨ

下

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some faint smudges and discoloration, characteristic of old paper. The left edge of the page shows the binding, with dark stitching or thread visible. There is no text or other markings on the page.

あれ衣とていふもきいおやの是音
ていばふ妙あれ白衣キスの残しれ残
ものしお是も何とて夜少ていふ
武能内流しくいそ人同の残衣
あひ有物ふきうねも世衣きても
あきやふふ山後布ちりていふ
やう讀しとて衣ありやうふ人

ふ人同のきうていふふれ衣も
帯あり其上人の衣きうていふ
もの残るもあきよのたうていふ
またふいさう衣つと袖もきうていふ
とて残るもあきよのたうていふ
事仙人の衣とていふおやの
やあきしうていふ仙人

仙掌ていあけきたるをちほふ山

鳥香をいふは海松をいふ也

夕
 ゆきやふさほ姫の夜とよそ
 たもいしちからゆきぬもまうん
 震の夜とし
 やきらゆきぬ衣ほ
 まくき夜とよわ
 謂ふに言はる
 うらゆきぬ衣ほ

ほとととく保ちあつて袖も緑の
 いとくくやうふもたぐれぬ家
 所もきつとあつたうきあれを
 たちもさぐれとさぐれとてを
 仕事もあつてさぐれとてを
 ほとととくやうふもたぐれぬ家
 ほとととくやうふもたぐれぬ家

ひに依保六三よう山海草木五ふくくさるる

こころをハナハナすゆしてふれ冥途の祓可

かうハナハナうらまは墨子とけう所とれ事

あまを目まもる神といふも此山根の祓徳

そそ草木をミテしらふちりてはてがけ

のあけり目らるるうぬれ前れるあし

あま目さほる山河のうきもぬく子秋万徳

曲下れ春と得くちほ山根とあしれ祓

たう目あれ綿あまをしらぬきわさほ

山根目きらるるもんとあまのあま

此山目のたへあれ秋のうきありがやふ

とふ目あまの四の時く年いそをう

ふ目花のまを糸れ秋のうきあま

し目たかりやてもあまやあまふし

あゝの世そいしきことしつ山を
妻の目れをもめて慈恵す所の神
徳乃ひうきうひのうもまか安全
れ回とや^マ押^シわ^ハれ回^ハる^マせ
小^コお^オ返^ヘ孫^ソき^キら^ラひ^ヒか^カも^モび^ビる^ルこと久^キく
の^ノお^オま^マ乃^ノこ^コも^モ孫^ソの^ノう^ウれ^レも^モ此^{コノ}秋^{アキ}津^ツの^ノ
ゆ^ユし^シと^トて^テ皇^{スミ}孫^{ミマロ}と^トい^イは^ハき^キお^オひ^ヒし^シや^ヤ皇^{スミマロ}

海^{ウミ}は^ハた^タき^キ海^{ウミ}の^ノ時^{トキ}津^ツ風^{フウ}海^{ウミ}の^ノ波^{ナミ}の^ノ
色^{イロ}可^カ巖^{イワン}と^トよ^ヨ子^コみ^ミる^ル山^{ヤマ}こ^コも^モり^リん
や^ヤけ^ケ竹^{タケ}の^ノさ^サま^マ乃^ノ山^{ヤマ}邊^ヘれ^レ妻^{メケ}の^ノ色^{イロ}可^カ山^{ヤマ}と
れ^レと^トあ^アう^ウら^ラう^ウけ^ケや^ヤら^ラい^イもの^{モノ}と
あ^アれ^レく^クさ^サま^マ乃^ノ山^{ヤマ}邊^ヘれ^レあ^アら^ラう^ウと^トを
う^ウん^ンも^モし^シち^チよ^ヨま^マ〜[〜]海^{ウミ}の^ノ波^{ナミ}の^ノ
て^テと^トも^モさ^サの^ノた^タけ^ケつ^ツて^テよ^ヨさ^サま^マ乃^ノ山^{ヤマ}と

まほしき月の夜遊をけしむ月夜

遊とまほしき月夜をけしむ月夜

市代もれも春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

花のうきうきと春日野の月夜

ね袖^{こころ}の^{しるし}子^この^{うへ}衣^えを^はら^へて^は極^{きよく}
た^たう^うい^いろ^ろう^うき^きあ^あも^もや^やる^る日^ひ
お^おあ^あの^のう^うら^らり^りを^をう^うら^らり^りと^とあ^あは^はれ^れは^は
も^もう^うさ^さは^は娘^{むすめ}の^のう^うて^てき^きたり^りあ^あま^まし^し
や^や

日^ひの^のう^うら^らり^りを^をう^うら^らり^りと^とあ^あは^はれ^れは^は
も^もう^うさ^さは^は娘^{むすめ}の^のう^うて^てき^きたり^りあ^あま^まし^し
や^や

早^{はや}三^{さん}三^{さん}三^{さん}

放^{はな}し^し

影^{かげ}と^とあ^あつ^つ君^{きみ}を^をく^く方^{かた}に^に

珍^{めづ}あ^あり^りは^はま^ま 相^あ見^みの^の常^{じょう}陸^{りく}國^{こく}廉^{れん}

鴻^{こう}の^の祚^そ微^ゐ玩^{がん}坂^{さか}の^のあ^あま^まう^うと^とは^は秋^{あき}

事^{こと}あ^あり^り秋^{あき}に^にあ^あま^まう^うと^とは^は活^{かつ}湯^{たう}の^の

と^と社^{しゃ}あ^あり^りあ^あ詣^{よみ}ア^アて^ては^は又^{また}比^ひの^の八^{はち}月^{げつ}

又^{また}日^ひ南^{なん}を^を由^{よし}ア^アり^りは^は明^{めい}の^の八^{はち}月^{げつ}

海の鱗へはきくはるかに
豊ある世よりとふ事偏に當はれ
利生也つて年も千般経た
のふくもて来く此代は
照月る八幡山く官路に久
ふのあめ塊とて救ふを
あめ松の凡十世解のいふ

いふふふふふふふふふ
殊文は祓事とて皆人清浄なり
は姿あるは是なる翁より奥
とる持教生の業不審はは
當社にま詣乃人を見しむる
ちうふきふめはの祓事
と何やちうふふふふ

けられ神々教生會とるや
あられ^ニたれ^ニう教生會に生れ
教に参る^ニう^ニて^ニ讀^ニく^ニけ^ニ臭^ニき^ニた^ニ
臭と具傳^ニて^ニ教生^ニに^ニて^ニ
為^ニあり^ニち^ニぬ^ニふ^ニと^ニお^ニ宣^ニひ^ニう^ニ
其^ニ上^ニ古^ニ人^ニを^ニ文^ニと^ニす^ニる^ニ方^ニ便^ニれ^ニ教^ニ
生^ニた^ニる^ニ善^ニ善^ニの^ニ萬^ニ行^ニに^ニお^ニき^ニる^ニを^ニし^ニ

増^ニて^ニや^ニ是^ニに^ニ生^ニれ^ニと^ニ教^ニて^ニき^ニ臭^ニき^ニる^ニ
秋^ニの^ニ又^ニう^ニの^ニ誓^ニ言^ニの^ニ細^ニに^ニ傳^ニれ^ニた^ニ
の^ニ惠^ニを^ニ教^ニ生^ニに^ニて^ニあ^ニる^ニ其^ニに^ニ謂^ニふ^ニ
何^ニ事^ニり^ニ其^ニ國^ニに^ニ生^ニれ^ニの^ニ時^ニに^ニ多^ニく^ニ
の^ニ敵^ニと^ニせ^ニし^ニる^ニを^ニ生^ニれ^ニ善^ニ根^ニ其^ニ
為^ニに^ニ放^ニ生^ニれ^ニた^ニと^ニい^ニふ^ニを^ニ謂^ニふ^ニ

夫有^レ穀^ノや^レさ^レて^レく^レま^レと^レあ^レる^ノ
 其^ノけ^レハ^レん^ノを^レの^レ徳^ノを^レし^ノ武^ノ徳^ノと^レあ^レる^ノ
 此^ノ河^ノの水^ノ乃^レ濁^ルも^レ非^レ濁^ル也^ノ也^ノ
 夫^ノ石^ノ清水^ノの^レ未^レき^ノひ^ノろ^ノろ^ノ此^ノ
 乃^レ片^ノは^レろ^ノろ^ノ水^ノ桶^ノを^レも^レ同^ノ一^ノ油^ノひ^ノろ^ノろ^ノと^レい^ノふ^ノ水^ノ

桶^ノと^レ水^ノ底^ノに^レ沈^ルま^レる^ノ臭^ノは^レろ^ノろ^ノ
 簪^ノつ^レや^レ水^ノと^レろ^ノろ^ノ汚^ノ陰^ノに^レ漂^ル
 荷^ノ葉^ノ動^ルを^レ見^ル臭^ノハ^レ遊^ル子^ノ有^レ様^ノの^レ足^ノ
 も^レい^ノま^レね^ノと^レい^ノれ^ノい^ノち^ノに^レ也^ノ也^ノ
 た^レち^ノも^レさ^レに^レ相^ノ當^ルは^レや^レア^ノ人^ノ欽^ル明^ル天^ノ
 皇^ノの^レし^ノろ^ノろ^ノ一^ノ百^ノ余^ノ歳^ノの^レ世^ノを^レへ^レ
 て^レ此^ノ山^ノ子^ノ移^ルア^レたり^ノま^レあ^レる^ノ

放生河公

宗廟の神として代りて
家と機を以て之を以て
九室に八傷山神を以て
八に諸佛出世の空を
去るを以て之を以て
わたりて人佛不二の
わたりて人佛不二の
わたりて人佛不二の

我々他の人々をわたりて
 冷や恵みたる経を授け
 其の誓願目下行教和尚の
 水子影の如く南無
 山王菩薩の如く長子
 ありありとされたりや宗廟にあり

まゝに君代の直あね道を
 國百民の電もぐ賑もひが
 へつきふ海に波もゆるあり
 和益諸元生ののち言ひ^翌二世安樂
 の神徳の栄行や^真勢山より松
 たてし梢も受も吹^吹の^名皆^言相
 のひに^もく嶺の山より其^言

つま^ま神樂懺悔の心受は^ま夜声
 いふ^ま神^まひて月^まけろ^ま石^ま清水^まの^ま清^ま
 うね^ま越^まひ^ま水^まの^ま時^まり^まぬ^まち^まひ^まの^ま切^ま
 少^まふ^まあ^まる^ま老人^まよく^まの^ま神^ま妻^まの^ま
 ち^まそれ^ま神^まを^ま泥^まも^ま有^ま秘^まの^ま代^まま^まげ^ま念^ま
 古^まへ^まも^ま二^ま百^ま八^ま歳^まの^ま事^ま秋^まと^まほ^まる^まひ^ま
 て^ま神^ま徳^まを^ま受^まへ^また^まの^ま齡^まい^ま武^まの^ま心^ま

校生張公

三
百
一
十
五
番
の
和歌とあはれ
序
代
毛
和歌とあはれ
舞
と
舞
けり目
を
い
ふ
中
に
小
三
の
衣
と
り
各
舞
と
ま
ひ
お
う
や
ほ
ろ
の
舞
人
和
子
と
あ
も
其
品
う
る
ま
ひ
お
う
言
の
震
の
和歌とあはれ
て
震春樂とあはれ
も
又
夏
より
さ
ら
な
る
成
舞
と
舞
終
る
涼
凡
何
水
より
う
る
て

見つる憂の須杯樂とて流るる
 て長き夜も更なる所の音は驚くた
 うを舞の拍子うや秋風ぬく目には
 影さるるの秋風樂とて流るる
 日ぬく雪の夜は白雲の袖と
 翻るる桜橘さるる花の冠と

三十七 万葉集卷之四
ふもて 釣くくよふも ぎはる
山庭 樂と けふや けふの けふ
へま 言葉の けふ 時と けふ けふ
まさく けふ けふ けふ けふ けふ
和歌の ふらふら 目も けふ けふ

玉井

早サレ

りま ちち けふ けふ けふ けふ
りま 天神七代地 けふ けふ けふ
りま 見ると けふ けふ けふ けふ
りま 同降の 釣針と けふ けふ けふ
りま 海鳥の 釣針と けふ けふ けふ
りま 果に けふ けふ けふ けふ

星あに月つうにえふ
とつてもちろに月あふ
玉舟つうにえふ車も
かき玉をうちるはたし
具さぬまた女姓二人あふ玉
の鐘とさけ水とちよき
なと詞とつてもいふ
あきあき

あね木陰に立寄ふ
なへ人あにたはあき
釣瓶と沈つていふ
底とてまた桂木
なと見へちあね人
ぬとつていふ
去あふあてあふ
あきあき

ちりぬる
 八
 三
 ちりぬる
 ちりぬる

あつうき皇女ねえけいあり
各とちつて豊姫王依人

姪官へ金銀梳裏よりと傳へる板
を破釣針と待てりわたり宮
持まをよ^{早由}真人^李を云わたり
ふもれや^{目上}釣針と事て天孫に
前よりある^李あはれ塩ひの可^かむ
と奏し豊指玉^し枕油とむして
と奏し豊指玉^し枕油とむして

つても妙ある舞の袖く
替うる^し月も照る^しの姿
言とつる^し後^しわたり宮
わたり宮に姿へ老龍の雲より
蟠橋^し杖よりとる^し方^し右より
花やし^し足^しを^し盤^しを^し柏子^しと
て時移まへる^し下^し庭^しと立^しる^し人^し

續監

仕俗三上風入又新松守三上也三上雪

窪谷子於棠津野のそと

勢乃長橋打板

野路藤原忠足枕夢一夜旅

収
収
急
子
是
也

魏の赤官は名を伊。今夜ハ云

分子之
此所
繪馬
之掛
由是

和の繪馬を掛お者とてゐるやいふ

[illegible]

天久
惠
水
震
天
雲
立

去年の秋

馬と花の野々子

桃林王隱事皆聖人忠孝

二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

繪馬の土

時^トもひ^ニま^ニさ^ニく^ニ回^ニ方^トの^ニ海^トる^ニま^ニま^ニ
真^ニ砂^トを^ニう^ニく^ニて^ニも^ニ君^トう^ニち^ニも^ニれ^ニあ^ニ
^トに^ニま^ニだ^ニう^ニく^ニも^ニれ^ニる^ニま^ニま^ニ
千^ト盤^ト經^ト非^ト代^トと^ニま^ニく^ニ入^ニ壁^トの^ニあ^ニま^ニひ^ト
つ^ニき^ニれ^ニ伐^トう^ニて^ニも^ニ皇^ト未^ト代^トの^ニ子^ト孫^ト
心^ニを^ニか^ニみ^ニ成^トう^ニに^ニう^ニき^ニく^ニ海^トの^ニ國^ト
つ^ニゆ^ニく^ニく^ニ及^ニぬ^ニ君^トと^ニあ^ニま^ニ手^トつ^ト

ふ^ニね^ニひ^ニつ^ニく^ニも^ニり^ニく^ニが^トさ^トも^ト
あ^ニ夜^トも^ニや^ニ夜^ト半^トなる^ニま^ニく^ニ人^ト音^ト
の^ニず^ニえ^ニれ^ニう^ニに^ニ人^ト音^トの^ニつ^ニひ^ニく^ニま^ニ
き^ニの^ニの^ニへ^ニあ^ニい^ニの^ニ事^トを^ニれ^ニう^ニ
何^ト事^トも^ニて^ニれ^ニう^ニ今^ト夜^トに^ニあ^ニり^ト
繪^ト馬^トを^ニ掛^トお^ニこ^ニす^ニへ^ニ誠^トを^ニく^ニい^ニう^ニ
て^ニい^ニれ^ニく^ニみ^ニう^ニみ^ニう^ニけ^ニれ^ニよ^ニえ^トる^ト

何の謂よりと掛る 八

一切の愚癡無智あるをいふ。

明年の雨さうし又雨さる。

ももろくは為す。

夜さる繪馬とて明年の

日をいふ。

もひもたえ雨露のさる。

受民の心もいふ。

ろゑ繪馬と掛て國土豊ふ。

まあり テ 智の耕作のさる。

それとある。

ふひとる。

民よりいふ。

石橋と謂ふ。

天の地をうへにわたりて
 神の極きつちをわたりて
 雲をさへりてあまき
 ありてうへにわたりて
 争つては行路の道
 ちやうちの繪馬をうへに

萬民たのむ世にあふ
雨ももつ
人民は樂の
かたきそあや見をとう
垣子繪馬へ掛たりや他土豊子を

曲下

まゝにふとくあだへ繪り
 りてお女の姿よりいふ
 心よりこころのまじり
 りてくつあく約へて中
 たりてお路のそとあは
 かりて受れ手枕よりい
 かりて言葉よりいふ

^{李王} 云々 萬里 秋 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 夜 半 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 内 不 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 疑 心 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 と 現 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 神 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦

秋 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 代 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 利 物 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 た つ 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 ハ 盧 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 や ま 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦
 所 乃 宮 大 神 伊勢 二 王 夫婦

金
之
入
谷
土

志るよ木綿四季の
神りまねる有りや
繁戸は内籠つゝ
あちきんそで日月二りの影と
常闇の夜を相いりて
是れもあひきて
御恵ともや柳葉の青幣白

幣を様々とし、
僱馬樂をも
面白くし、
ひたひたと
子力雄明神に
力をつくす。石
寺のありさま。
あつと。

天地之間
萬物之生
莫不由之
而天地之間
萬物之生
莫不由之
而天地之間
萬物之生
莫不由之

下係之音曲先年白番雖全
板門也龍謡教番因有脫落之
追願亦今亦後自番令用板者也
章句声付不順諫意所可有
此也學士有効受如南都伯改正之

貞亨三曆

丙寅

京都

吉田德興清満正

西森六兵衛春

霜月吉日

江戸次原辰兵衛春

